

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472800398
法人名	医療法人社団 北條会
事業所名	グループホームそば
訪問調査日	平成19年8月7日
評価確定日	平成19年10月13日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1472800398		
法人名	医療法人 社団北條会		
事業所名	グループホームそば		
所在地 (電話番号)	神奈川県秦野市渋沢1856-1 (電話) 0463-86-0150		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成19年8月7日	評価確定日	平成19年10月13日

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年1月31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤11人, 非常勤6人, 常勤換算12人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円	
敷金	有() 円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	79 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八木病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは丹沢の山系が見える丘陵地にあり、周りは畑が点在する静かな住宅地である。
 管理者は利用者の状況を把握し、法人内の他施設と連携しながら、家族の意向も反映し、利用者のその時の状況に合わせた支援を行なっている。
 職員研修に積極的に取り組んでいる。職員は外部研修や法人内の専門研修を受講し、スキルアップにつなげている。
 毎月、法人内の便りと、グループホームでの利用者毎の状況を家族に送り、家族との信頼関係を深めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果はいつでも見られるように公表している。職員は、外部評価を通してサービスを再確認し、更なる質の向上を目指している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で実施し、内容を検討している。管理者は自己評価の作成を職員との話し合いの場としても活用し、サービス内容の再確認につなげている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>今年の5月に第1回の運営推進会議が開催された。会議には利用者、家族会などが参加し、防災訓練の確認や意見交換が行われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>介護計画の更新時に利用者の状況、今後の対応などを家族と意見交換している。6ヶ月に1回、または訪問時に随時家族面接を行って、要望・苦情を聞き、家族から要望などあれば運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に加入し清掃活動に参加している。また、事業所の一角を地域のごみ集積所として提供している。事業所開設から6年が経過し、地域の方との挨拶を通じて交流ができるようになった。地域との交流を深めるため餅つき大会の開催を検討している。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念	「利用者の人格尊重」、「利用者本位のサービス提供」など事業所の運営理念として6項目をかかげている。運営理念に沿って年度別の重点目標(「地域との交流を行う」など)を作成し、サービス向上に取り組んでいる。		
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
		理念の共有と日々の取り組み	管理者は毎朝の朝礼、2ヶ月に1回のユニット会議・ユニット合同会議で運営理念の共有に努めている。運営理念は分かりやすく記載し、各ユニットの入り口や各職員のロッカーにも掲示している。		
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい	地域の自治会に加入し、地域清掃に参加している。また、事業所の一角を地域のごみ集積所として提供している。事業所開設6年目で地域の方との挨拶を通じて交流が出来るようになった。地域との交流を深めるため餅つき大会の開催を検討している。		
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用	自己評価は全職員で実施し、検討されている。管理者は自己評価を職員との話し合いの場としても活用し、サービス内容の再確認につなげている。外部評価結果はいつでも見られるように公表している。		
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
		運営推進会議を活かした取り組み	行政との調整の結果、運営推進会議の開催は3ヶ月に1回となり、今年の5月に第1回の運営推進会議が開催された。会議には利用者、家族会などが参加し、防災訓練の確認や意見交換が行われている。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年1回行われる市の保健センターフェスティバルのグループホームエリアに参加し、情報交換を行っている。市の窓口には毎月10日までに事業所の状況や経過を報告している。窓口担当者との情報交換も行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況は居室担当者のコメントをつけて金銭出納と共に毎月家族に報告している。利用者に状況変化がある時は家族に電話で連絡し、法人にもFAXで連絡している。グループホームの様子も載せた法人の「みかんこだより」を毎月家族に届けている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画の更新時に利用者の現状、今後の対応などを家族と意見交換している。6ヶ月に1回、または訪問時に随時家族と面接を行って要望・苦情を聞き、家族から要望などがあれば運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で職員の異動があるときは、時間をかけて職員全員で情報を共有しながら引き継ぎを行い、利用者に影響を与えないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、外部研修や毎月行われる法人内の専門研修に参加している。受講者はミーティングなどで研修内容を報告している。平成19年度より、3年以上の職員を対象に「幅広い経験・知識などを習得し、よりよい介護のために」法人内の異動を取り入れている		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に3～4回行われる市内のグループホーム協会の会議に参加し情報交換をしている。相互研修はこれまで2回行われており、参加を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の希望があれば管理者が家族を訪問して事業所のサービス内容などの説明を行う。その後に希望者本人に事業所を見学してもらっている。入居の際は家族と相談しながら時間をかけて対応している。この6月に1名、新規の利用者が入居した。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は家事(洗濯物のたたみ、調理、掃除など)を職員と一緒にこなしている。利用者が自分でできることに達成感を感じられるよう、職員は、「ありがとう」の言葉かけをしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は利用者個々の性格や状態を観察し、気づきを共有し、利用者の意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当の職員が利用者の問題点を提起し、担当でない職員からも意見を聞いている。担当者会議で家族の要望なども反映し、利用者個別の介護計画を作成している。担当者会議には管理者、計画作成者、居室担当、主任他が出席している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。利用者の状況に変化がある場合は家族に連絡し、随時見直しを行っている。その場合は、緊急の担当者会議で利用者の現状に即した介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「認知症対応型通所介護」の指定は取っているが、現在のところ利用者はいない。地域の方を対象とした、電話での高齢者の介護相談を行っており、法人も含めて対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞いてかかりつけ医を決めている。利用者18人の内、4人は外部の医療機関、14人は協力医療機関をかかりつけ医としている。病院への付き添いは基本的には家族が行っているが、職員が対応する場合もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族を含めて関係する他職種と連携し、重度化への支援体制について話し合いを重ねている。入居時に、家族には法人内の支援体制を説明している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者への声かけをする際は尊厳を損ねないように、また、馴れ合いにならないように配慮している。利用者、職員を含めて個人情報を含む書類は指定の場所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の声かけは行っているが強制はしていない。職員は、昼夜逆転している方、徘徊する方など利用者の状況を共有し、個別に支援している。利用者がリビングで生活する時間を多くして、居室に閉じこもらないように見守り支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は、同法人の介護老人保健施設で調理した食事が運ばれ、盛りつけを当事業所で行っている。職員も利用者と一緒に食事をしている。毎週水曜日、金曜日の昼食及び土曜日の朝食は、利用者と職員が一緒に献立を考え、食事を作るようにしており、楽しみの一つになっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、午後3時30分から午後6時30分の間に行っている。利用者がゆっくり入浴出来るように職員が見守り支援している。自宅でほとんど入浴をしていなかった利用者が、入所後に家族の協力も受け、2年かかって入浴できるようになった事例もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者がペーパークイリングで作品作りを楽しんでいた。メッセージ入りの、夏祭りへの家族の参加表を利用者が作成している。また、プランターでナスを栽培している。水やりを職員と一緒に行うことで歩行訓練にもなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は職員の声かけで朝の涼しい時間帯に10分～15分の散歩を楽しんでいる。また、近隣の農家へ職員と一緒に野菜の購入に出かけたりしている。季節毎に地域の出雲大社や運動公園などにドライブに行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として玄関の施錠はしていない。職員の連携で利用者を見守り支援している。外出しそうな利用者は、職員が時間帯を把握して見守っている。納得しない場合は一緒に外を歩いてくるなどの支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に2回の防災訓練を事業所内で行っている。消化器の定期点検を実施している。また、非常食の備蓄を(18食×3日分)している。防災について地域との協力関係は不十分である。		自治会や運営推進会議等を通じて、防災対策に向けて事業所と地域との関係を強めていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量は摂取表で記録している。糖尿の方が1名おり、個別に支援している。法人内の専門職から週単位で献立のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンが背面キッチンになっているが、壁に鏡の代用品を貼り、職員がリビングの様子が分かるように工夫している。リビングに家庭用の食卓を3卓置いている。フロアには一段高い畳の部分もあり、ホオズキなど季節の花や利用者の作品が飾られて家庭的な雰囲気である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、それぞれ居室にテレビや位牌、馴染みの家具、小物を持ち込み、その人らしい居室になっている。各ユニットに畳の居室が1室ずつある。個々の居室はもちろん、リビングや廊下もタイルカーペットが敷かれ、足元が心地よい。		